

平成29年度

天理市政アンケート調査報告書

<男女共同参画編>

平成 30 年 2 月
天理市

アンケート調査の概要

(1) 調査方法

1. 調査対象

平成29年9月1日現在で天理市内に在住する18歳以上の人3,000人
(住民基本台帳および外国人登録データから無作為抽出)

2. 実施方法

郵送による調査票の配布・回収

3. 調査期間

平成29年10月2日(月)～平成29年10月16日(月)

(2) 回収結果

対象者	有効回答数	回収率
3,000人	923人	30.8%

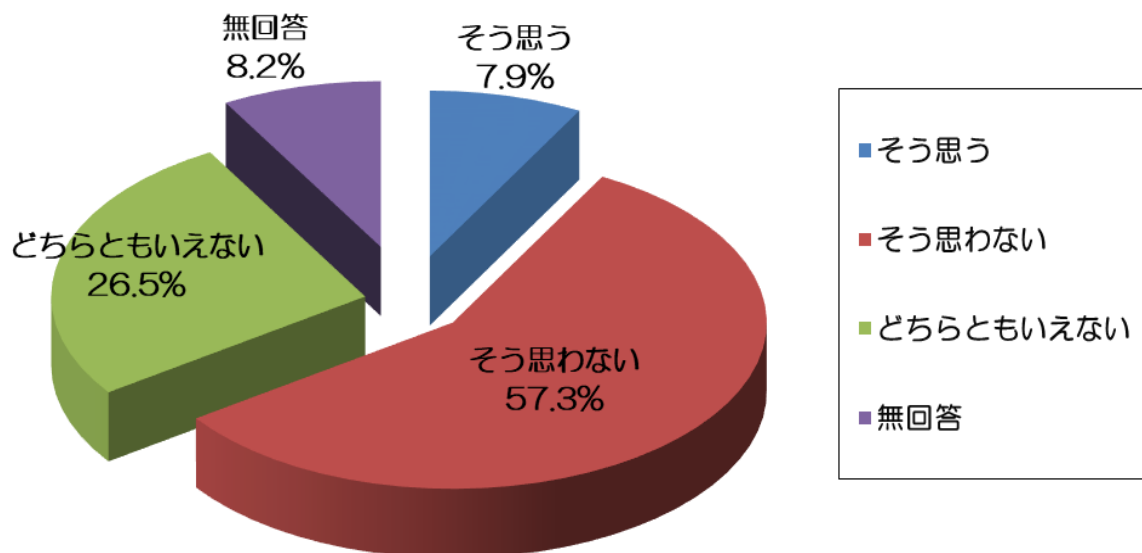
(3) 報告書の注意点

- ・百分率(%)は小数第2位を四捨五入して表示しているため、比率の合計が100%にならない場合があります。複数回答の構成比率の合計は100%になりません。
- ・一部の人を対象とする質問では、対象者数を分母にして比率を算出しています。
- ・二重回答や判読不能の回答などは、無回答に含めています。

男女共同参画意識について * * * * *

社会情勢や地域の実情に対応した男女共同参画のまちづくりを進めるために、天理市が取り組むべき課題と今後の施策の方向性を明らかにすることを目的として、問10では、男女共同参画に関する意識調査を実施しました。

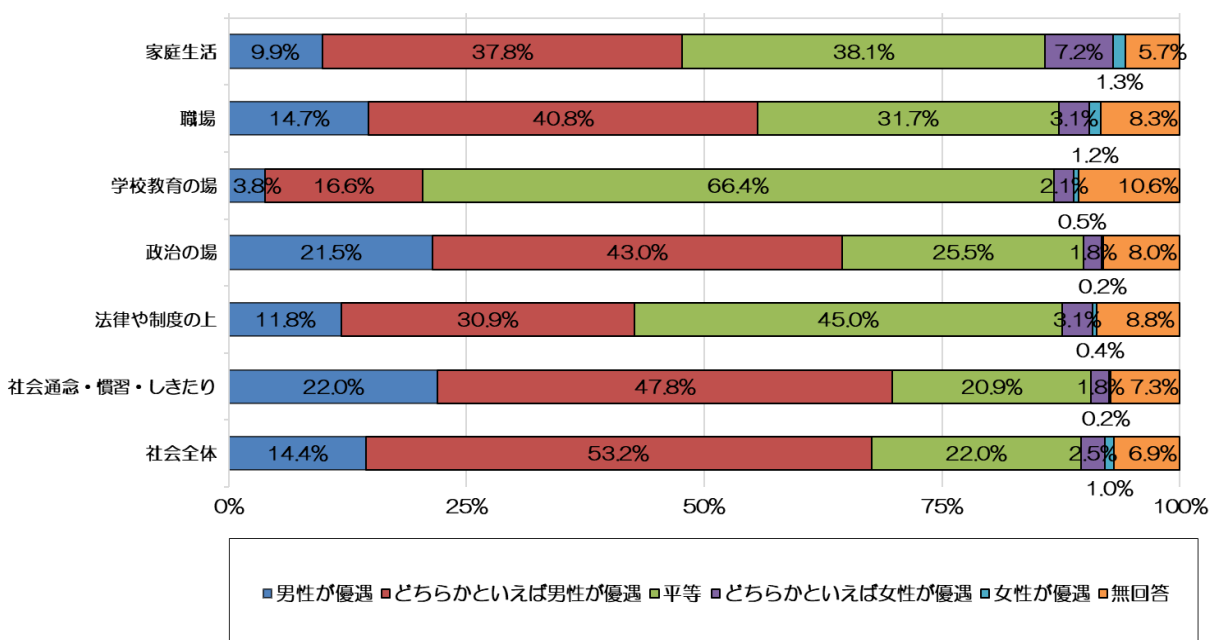
問10 - (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思われますか。



問10 - (2) 社会生活における次の場面について、男女平等だと思いますか。

7つの場面における男女の平等感について、「平等」と答えた人の割合が最も高かったのは「学校教育の場」が66.4%、続いて「法律や制度の上」が45.0%でした。

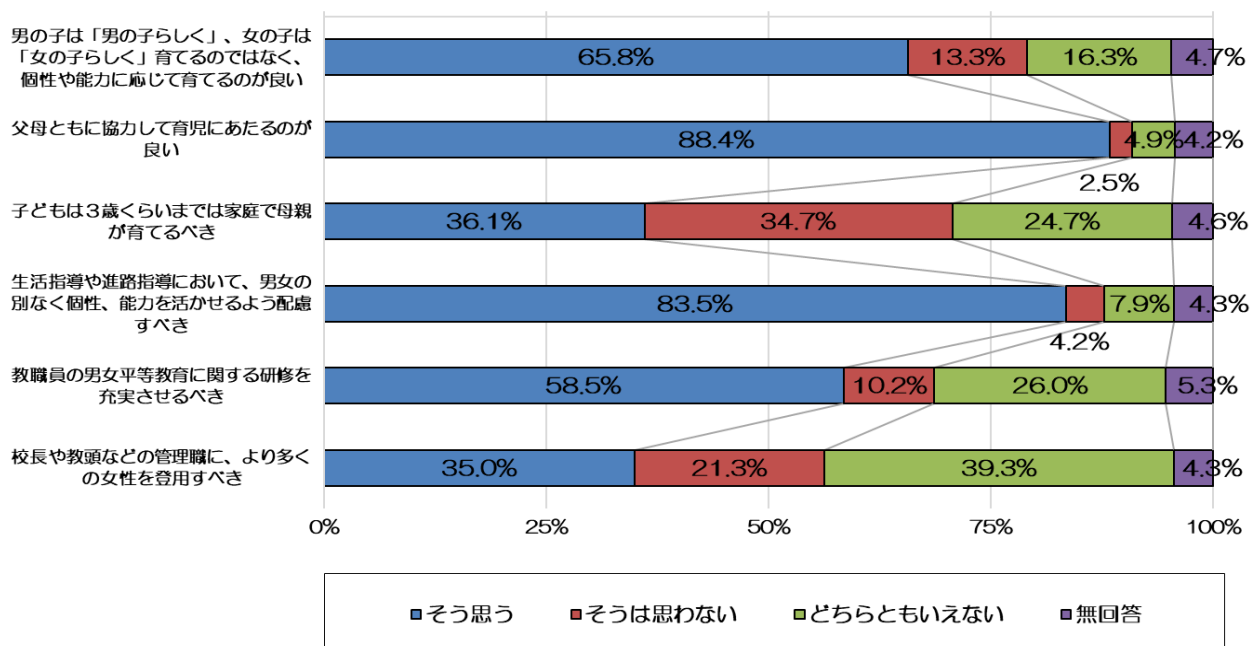
全体的に「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」されていると感じている人の割合が高くなっており、中でも「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」については全体の約7割を占めようとしています。



問 10 - (3) 家庭での子育てや学校教育などについて、どのようにお考えですか。

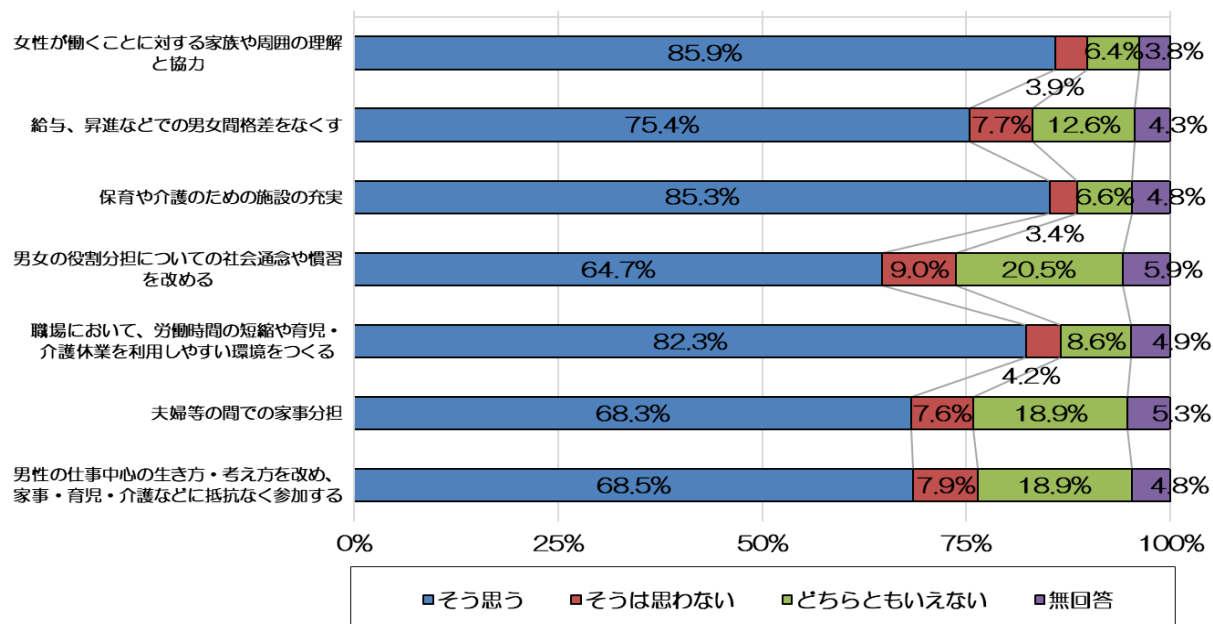
下記の6つの考え方について、「そう思う」と答えた人の割合が高かったのは「父母ともに協力して育児にあたるのが良い」88.4%、「生活指導や進路指導において、男女の別なく個性、能力を活かせるよう配慮すべき」83.5%でした。

対して「そう思わない」や「どちらともいえない」と答えた人の割合が高かったのは、「校長や教頭などの管理職に、より多くの女性を登用すべき」「子供は3歳くらいまでは家庭で母親が育てるべき」という考え方でした。

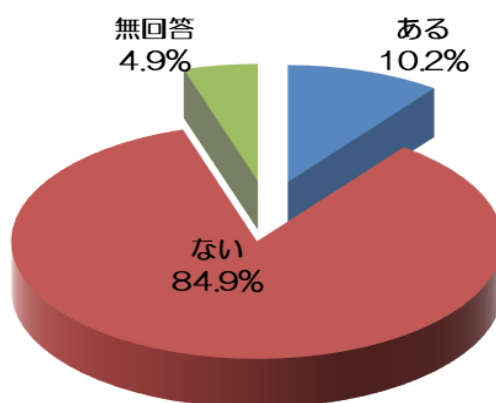


問10 - (4) 女性が仕事を続けるために、どのようなことが必要だと思いますか。

女性が仕事を続けるために必要なことについて、特に割合が高かったのは、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」(85.9%)、続いて、「保育や介護のための施設の充実」(85.3%)でした。いずれの項目においても「そう思う」と答えた人の割合が高く、全体的に下記の事柄が必要と思う人の割合が高い結果となりました。

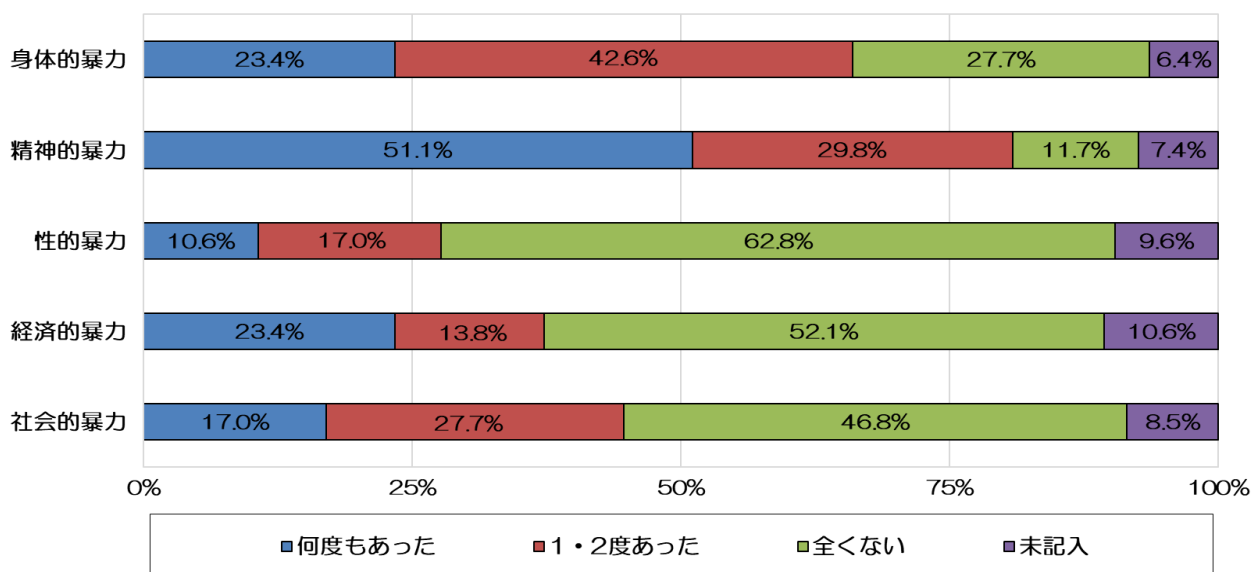


問 10 - (5) 配偶者、パートナー、恋人からドメスティック・バイオレンス（親密な関係にあるパートナーからの暴力）を受けたことがありますか。



配偶者、パートナー、恋人からドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人の割合は、全体の1割になっています。

暴力を受けたことがある人のうち、暴力の形態について尋ねてみると、「精神的暴力」（80.9%）が最も多く、次いで「身体的暴力」（66%）、「社会的暴力」（44.7%）、「経済的暴力」（37.2%）、「性的暴力」（27.6%）の順でした（暴力を受けたことがある人の割合は「何度もあった」「1・2度あった」を合わせた割合）。

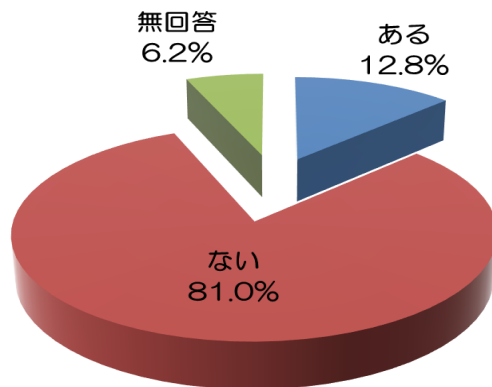


※問10-(5)の選択肢は下記のように分類

- 身体的暴力：殴る、けるなど
- 精神的暴力：家族をおどす、暴言を吐くなど
- 性的暴力：性的行為を強要するなど
- 経済的暴力：生活費を渡さないなど
- 社会的暴力：交友関係の監視や規制など



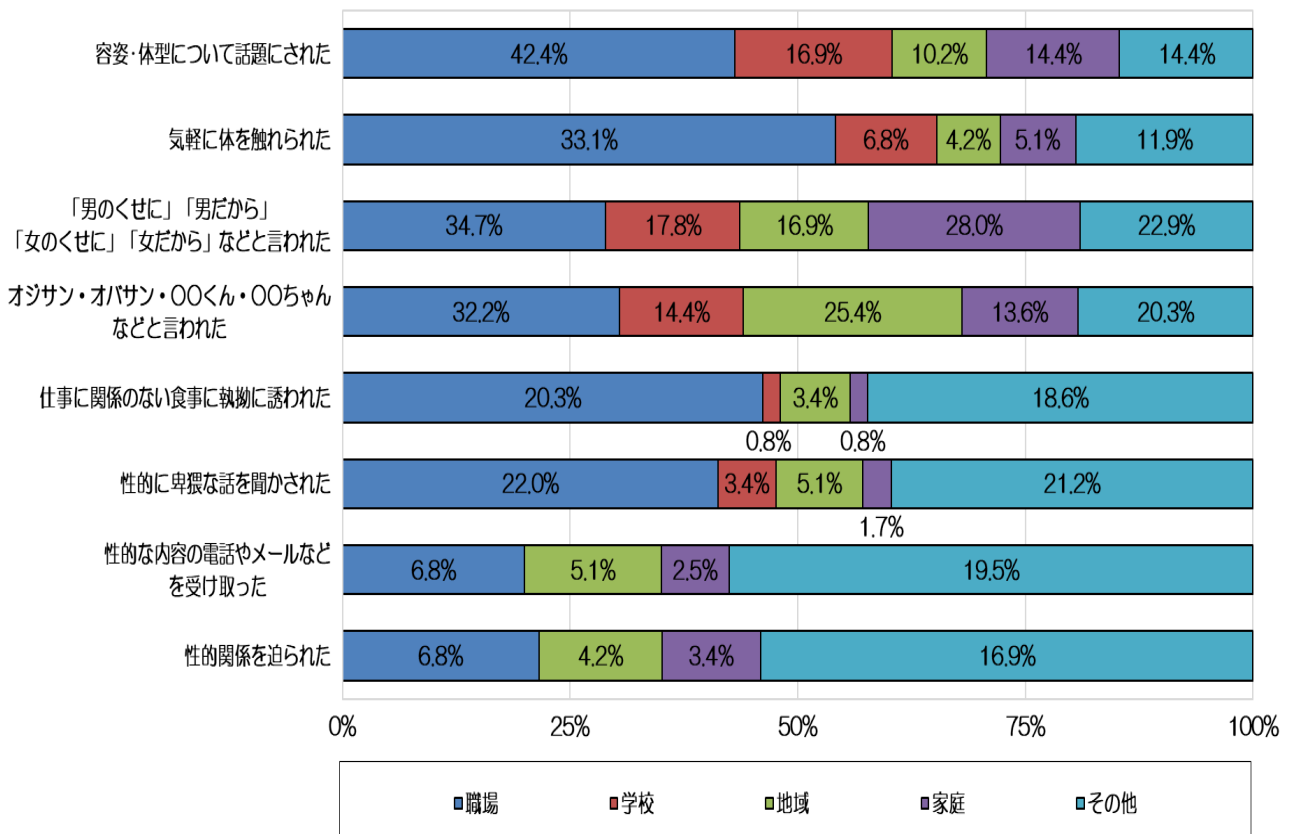
問10 - (6) 職場や学校、地域、家庭などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。（複数回答）



セクシュアル・ハラスメントを受けたことがあるかという問いについて、12.8%の人が「ある」と回答しています。

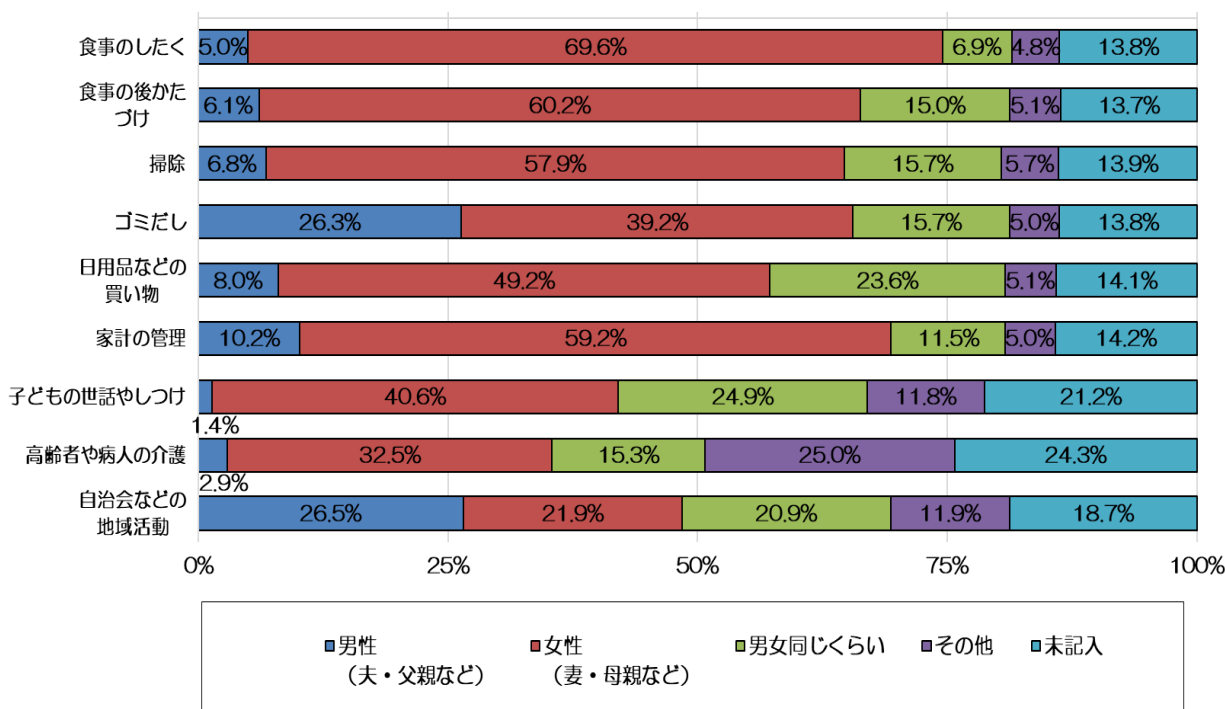
また「ある」と答えた人の中で、どのような行為を受けたかについて、最も多かったのは「『男のくせに』『男だから』『女のくせに』『女だから』などと言われた」（142人）「オジサン・オバサン・〇〇くん・〇〇ちゃんなどと言われた」（125人）、次いで「容姿・体型について話題にされた」（116人）、「気軽に体を触られた」（72人）でした。

どのような場面で受けたかについては、いずれの行為も「その他」の場面を除くと、「職場」で受けたと答えた人の割合が高くなっています。



問10 - (7) あなたの家庭では、次のような役割は現在どなたが主に担当されていますか。

全ての分野で女性の割合が高くなっています。特に「食事のしたく」は約7割、「食事の後片づけ」「家計の管理」「掃除」は約6割を占めています。男性は他の分野に比べ「自治会などの地域活動」「ゴミだし」の割合が高くなっています。



問10 - (8) 男女共同参画社会をつくるため、市はどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで回答)

「保育・介護の施設サービスを充実する」と答えた人が最も多く、全体の5割を占めています。続いて「女性の就労機会を増やし、職場における男女の均等な取扱いや労働条件の改善を進める」が35.1%、「男性の生活面での自立や家事、地域活動への参加意識を高める」が34.0%でした。

